

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2019年(令和元年)5月1日 《年6回・奇数月発行》

会報 第106号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao,Khan Por Senchy
Khan Por Senchy,(Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】 [カンボジア支援](#) [検索](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

「夢ホーム・里子訪問の旅」に会員19人参加

3月7日(13日、通算41回目)の「夢ホーム・里子訪問の旅」が行われ、一部参加含む19人の本会会員が参加した。

旅の参加者で構成する「夢ホーム・里子訪問の旅実行委員会」が主催、本会は側面からサポートした。

7日午前中、成田国際空港に集合、ANA直行便で一路カンボジアの首都プノンペンへ。

8日、コンボンスプー県にある「コンボンスプー小学校」(生徒数127人)を訪問、清水哲さん(桐生市、団体会員)が寄贈した井戸とトイレ棟の贈呈式に参加した。

9日、2コースに分かれ、それぞれ観光を楽しんだ。

Aコースはアンコールワット観光。前日国内便でプノンペン(シェンムリアップ)へ移動、9日に終日アンコールワット観光し、夕方の国内便でプノンペンに戻った。

Bコースは、ウドン半日観光だった。10日、本会が運営する児童養護施設

「夢ホーム」(コンボンスプー県、児童数19人)を訪問、子どもたちと交流した。その後近くにあるスラム街を訪問、子どもたちにお菓子を配った。参加者の一部が夢ホームで絵画指導、里子訪問を行った。

11日、2班に分かれ村で暮らす教育里子を訪問、里親さんを中心に支援する教育里子と交流した。

12日、小学校の授業参観コースとプノンペン市内観光コースに分かれて活動、午後は希望者を募り、悲劇の跡地視察として「トゥールスレン博物館」と「キリングフィールド」を見学した。

その夜にANA直行便で帰国、13日早朝成田国際空港に着き、実行委員会を解散した。

次の訪問の旅を7月4日(木)〜10日(水)に予定、参加者募集を開始した。

参加希望者は本会へ資料請求を。
電話 03・3991・2854
FAX 03・3557・1213

小学校で学用品を配りました



アンコールワットを見学しました



感謝状を受け取る清水哲さん

清水哲さんが井戸とトイレ棟寄贈

3月8日、清水哲さん(群馬県桐生市、団体会員)がコンボンスプー県、生徒数127人)に井戸とトイレ棟を寄贈、「夢ホーム・里子訪問の旅」に参加した清水さん始め、旅に参加した会員の皆さんと一緒に、その完成を祝った。当日はカンボジア祝日にもかかわらず大勢の生徒たちが集まり、本会が用意した学用品セットを生徒一人一人に差し上げた。

何故か心魅かれる国

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長

根岸恒次

味わった。

日増しに暑くなり、大都市プノンペンはエアコン使用などにより消費電力がうなぎ登り、電力不足による停電が頻発した。ひどい時は朝から夕方まで停電、ただでさえ暑い国なのにエアコンが使えないのは体に堪えた。

急激な経済発展にインフラ整備が間に合わない

途上国の典型である。タイ、ベトナムに続き、ラオスからも電気を買うことになった。

水不足も深刻だ。停電の影響もあり、ホテルの上の階は水が出たり止まったり。需要が多すぎで、供給が間に合わないようだ。

好景気に沸くカンボジア。不動産もバブル気味で、街は建設中の高層ビルばかり。その多くが中国、韓国などの外国資本。

政治は順調そうだが、

野党をつぶした昨年の選挙のやり直しを求める欧米の圧力が、一層激化している。政権がこれに応じない場合、欧米への輸出品に関税がかけられる恐れがある。

そうなれば、カンボジアの製造業が大打撃を被り、好調だった経済が一気にしぼみかねない。帰国も間近になったある日、耳を疑うとんでも

ない事件が発生した。カンボジアのタイ国境近くで、日本人の二人組が強盗殺人を犯し、捕まったとのこと。

私もカンボジアに通い25年経つが、こんな事件は初めて聞いた。しかも元自衛官とのこと。自衛隊がPKO部隊を世界で初めて派遣したのがカンボジアだったことを思うと、日本人の質が落ちたと痛感せざるを得ない。

名誉回復のため、もうしばらく活動しなければならぬということか。

課題山積みのカンボジアだが、何故か心魅かれる国ではある。特に農村

地帯には、かつて日本にあつた素朴な心の通じ合い、けなげな子どもたちの輝く瞳、のどかな田園風景が、乾いた心を癒してくる。



節水を呼びかける貼紙
(プノンペン市内のイオンモール)

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば74年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。



里親さん、ありがとう

【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。

- ・内訳
子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)
年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)
- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】 ・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 ・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)
・年3回実施の「里子訪問の旅」に参加し、里子に会うこともできます。

寄贈した校舎などの 再点検プロジェクト 第4回

3月16日(土)、平古場副理事長と及川副理事長が、本会が過去に校舎や井戸を寄贈した小学校をアパなし訪問、現状をリサーチした。

【訪問した小学校】

- ◆名称: ソンボー小学校(生徒数=800人、教師数=11人)
- ◆所在地: コンボンチャム県バーティー郡
(プノンペンから車で約1時間半)
- ◆寄贈年: 2009年に静岡県在住の会員様が5教室の校舎を1棟寄贈
- ◆現在の校舎数: 3棟
- 【点検の所感】
- ◆校舎の外壁が汚れていた。
- ◆寄贈者名が記されているネームプレートがはがれていた。
- ◆教室内の机の損傷が目立った。
- ◆生徒が着ている制服、汚れが目立つ子が多かった。
- ◆また、はだしの子も見られた。
- ◆貧しい村なので、里子支援を検討したい。



机の傷みが目立った

児童養護施設 夢ホーム日記

カンボジアのコンボンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても不遇な家庭環境にある子どもたちの教育と生活の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園しました。

現在11歳～15歳の男女9人が暮らし、近隣の小・中学校に通学しています。

■2月～3月、沢山の方々よりお米を頂いた。(後藤美由紀様、作間きい子様、夢ホーム・里子訪問の旅参加者の皆様)

■3月10日、「夢ホーム・里子訪問の旅」の参加者が訪問、昼食を食べながら子どもたちと交流した。参加者の斉藤芳子さんと阿部貴則さんが、子どもたちにろう画を教えてくれた。

■ドゥム・チョーヴィちゃん(中学1年)が、自宅に戻り、自宅に近い中学校に転校した。



「夢ホーム・里子訪問の旅」参加者の皆さんと

カンボジアの小学校に3つの井戸が完成

3月8日、清水哲さん(群馬県桐生市、団体会員)が「コンボンタメイ小学校」に寄贈した井戸の贈呈式を行った。

3月18日、根谷崎百合子さん(神奈川県藤沢市、里親会員)が「トゥールサコウ小学校」に寄贈した井戸の贈呈式を行った。同日、松原睦美さん(北海道函館市、会員)が「ブレイクロン小学校」に寄贈した井戸の贈呈式を行った。

井戸は一基20万円(ネームプレート付き)で完成する。井戸を贈ってくださる方は本会事務局へ。

(☎03-3991-2854)



松原睦美様寄贈の井戸



根谷崎様寄贈の井戸



清水哲様寄贈の井戸

3月に完成した井戸の内訳

	寄贈者名	学校名	生徒数	所在地(県名)
1	清水 哲様	コンボンタメイ小学校	277人	コンボンスプー県
2	根谷崎 百合子様	トゥールサコウ小学校	422人	コンボンスプー県
3	松原 睦美様	ブレイクロン小学校	210人	コンボンスプー県

※通算の井戸設置数(2003年～): 335基(3月現在)

お寺の中の小学校 を授業参観

3月12日、第41回「夢ホーム・里子訪問の旅」の最終日、宿泊ホテルから歩いて5分の「ワットコフ小学校」を、旅の参加者の半数が訪問、授業を参観した。

並みのツアーでは中々できないことだが、本会役員が何度か交渉し、学校側の快諾を得て実施している。

平古場副理事長から、生徒たちに学用品セットが贈られた。



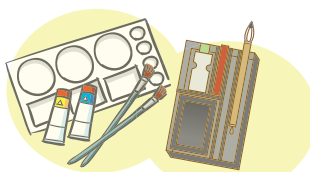
生徒に学用品を渡す平古場副理事長

タメイ小学校と平田 小学校の絵画交流

3月13日、及川副理事長が、夢ホームの子どもたちが通学する「タメイ小学校」(コンボンスプー県チュバモン郡、生徒数1973人)を訪問、絵画交流している「平田小学校」(岩手県釜石市)の生徒たちが描いた絵画や習字を届けた。

訪問に当たり、及川副理事長がチョークを数百本寄贈した。

「タメイ小学校」の生徒たちが描いた絵は、7月に及川副理事長が再訪問し、頂く予定。



絵画と習字を届けました



教育支援をお願いします!

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを会報紙面で紹介いたします。支援してくださる方は、子どもの名前を添えて本会事務局まで一報ください。

なお、既に里子をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見える、マンツーマン方式の教育支援です。



ドゥーン・モニジュリーちゃん(女の子)

プレチークむつこ
小学校4年生(9歳)

●家族構成Ⅱ父親は離婚して家を出た。母親はマレーシアへ出稼ぎに行っている。兄弟は姉が1人いる。現在おばさんと暮らしている。

●すきなことⅡ本を読むこと。

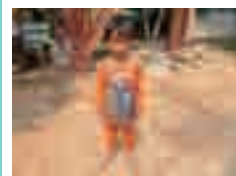


ナウ・ワンネーちゃん(女の子)

プレチークむつこ
小学校4年生(9歳)

●家族構成Ⅱ父親は離婚して家を出た。兄弟は弟と妹がいる。現在母親と暮らしている。

●すきなことⅡ絵を描くこと。



パン・ラクサー君(男の子)

プレチークむつこ
小学校1年生(6歳)

●家族構成Ⅱ父親は離婚して家を出た。兄弟は弟がいる。現在母親と暮らしている。

●すきなことⅡ本を読むこと。



ユム・ソパニット君(男の子)

プレチークむつこ
小学校2年生(8歳)

●家族構成Ⅱ父親は離婚して家を出た。兄弟は兄、姉、妹がいる。現在母親と暮らしている。

●すきなことⅡ絵を描くこと。



ホン・スレイモッチちゃん(女の子)

プレチークむつこ
小学校3年生(11歳)

●家族構成Ⅱ父親死亡、母親はタイへ出稼ぎに行っている。兄弟は兄と弟がいる。現在おばさんと暮らしている。

●すきなことⅡ本を読むこと。



ロモ・ティアラーちゃん(女の子)

プレチークむつこ
小学校3年生(9歳)

●家族構成Ⅱ父親と母親両方とも離婚して家を出た。兄弟はいない。現在おじいさんと暮らしている。

●すきなことⅡ本を読むこと。



アクセサリ作り技術講習会

3月26日～29日、榎戸徹彦さん(横浜市、理事・里親会員)が「夢ホーム」で第39回「アクセサリ作り技術講習会」を開催、夢ホームの子どもたちが受講しました。新たに指輪の製作を始めました。次回は6月～7月頃を予定しております。

2月25日～3月13日、國學院大學国際協力サークル「優志」の皆さん(5人)がカンボジアを訪問、僻村で衛生指導などの活動を行いました。3月3日には「夢ホーム」を訪問したり、教育支援する里子の家を訪問しました。

2月13日、宮下隆さん(東京都調布市、里親会員)と後藤美由紀さん(さいたま市、会員)が根岸理事長とともにカンボジアを訪問しました。宮下さんは18日まで、後藤さんは16日まで滞在、「セナープロモック宮下小学校」(プレアビハ県、生徒数1100人)を訪問するなど諸活動を行いました。

関連活動アラカルト

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病气や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約390人の子どもたちを教育支援している。

3月10日と11日、第41回「夢ホーム・里子訪問の旅」に参加した教育里親さんたちを中心に3組に分かれ、教育支援する里子の家を訪問した。

3月17日、根岸理事長ら3人が「プレチークむつこ小学校」に通う子どもたち(6人)に会い様子を聞いた。教育里子の候補として会報に掲載(2面)。18日、日本で預かった里子へのプレゼントを、根岸理事長と現地スタッフが里子の自宅へ届けた。5月は9日、25日の間に、根岸理事長ら数人がカンボジアを訪問する予定。



教育支援する里子を訪問

里子への教育支援金を隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフ、教育里子を通う小学校(現在27校)を隔月に訪問、教育里親から頂いた年会費(1人当たり3万円)の中から、42パーセントに当たる12,600円を6回に分け、米ドルに換金して渡している。

中学校、高等学校に通う教育里子も、出身校の小学校に集まり、教育支援金を受け取っている。



教育支援金を渡しました

3月下旬に、2月と3月の2ヶ月分を渡した。その際受け取った証として、学校別に受領ノートを作成し、里子からサインをもらっている。

里子へのプレゼントは 随時受け付けています

- 里子へのプレゼントは、原則として奇数月のカンボジア訪問時に里子へお届けします。(9月のみ、訪問がありません)
- 偶数月の月末までに送金又は手土産を事務局まで送っていただきますと、翌月の訪問時にお届けすることができます。
- 諸事情で翌月里子にお届けできない場合がありますが、その際は次の奇数月のお届けになります。予めご承知ください。
- 手紙のみもお届けしますが、少しでもプレゼントがあると里子が喜ぶと思います。

現地購入(プレゼント代を振込票にてご送金ください)

- ・自転車(中古品).....7,500円
- ・お米(50キロ入り).....4,500円
- ・Tシャツ2枚&サンダルセット.....2,000円
- ・本(絵本2冊・中学生以上は英語辞書1冊).....1,000円
- ・お菓子セット(お菓子の詰め合わせ).....1,000円
- ・文房具セット(ノート、筆記用具等).....1,000円

※上記の代金は、現地での物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。
※里親様が現地へ行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

- ◆日本から持参(事務局宛てにお送りください)
 - ・空港からの持ち出しに重量制限がありますので、レターパックやA4サイズの封筒に入るくらいまでのサイズでお預かりします。

教育里子を通う 小学校紹介(5)

本会が教育支援している小学校はカンボジア国内に27校、小学校を卒業した教育里子は、その周辺にある中学校、高等学校に通学している。

教育里子を通う(又は卒業した)小学校を順次紹介したい。



授業風景

《クランボンニャ小学校》

- ◎所在地= コンボンスプー県ウドン郡クランボンニャ村
- ◎生徒数=270人
- ◎教師数=6人
- ◎校舎数=2棟
- ◎歴史=1979年に創立
- ◎里子数=16人(2007年に支援開始)
- ◎周辺の環境= 古都ウドンに近く、のどかな田園風景が広がる。

「マレッチ小学校」 新校舎が完成、 贈呈式行われる

「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区、石川幸夫代表)及び「新津ライオンズクラブ」(新潟市秋葉区)の資金協力により、昨年9月に着工した「マレッチ小学校」(プレアビヒア県、生徒数1133人)の新校舎(3教室)が完成し2月15日、カンボジア政府主催の贈呈式が行われた。

式には、寄贈者側より石川代表を始め3人が出席、「在カンボジア日本国大使館」から松本泉二等書記官が、カンボジア政府からシアン・ブンレン内務省副長官夫妻を筆頭に約50人、地元から県知事を始め村民、生徒ら約500人が出席した。本会からは、根岸理事長他3人が出席した。

老朽化した木造校舎に代わり立派な校舎が完成し、生徒たちは早速、元気で授業を受けていた。



贈呈式で挨拶する 石川幸夫代表

「チュレイチューン小学校」新校舎も 完成、贈呈式行う



完成した新校舎の前で

投稿

感動の連続でした

私は今回「夢ホーム・里子訪問の旅」に初めて参加しました。感動の連続で、時々涙で頬を濡らしました。

私はカンボジアの世界遺産に興味があり、3回ほど訪れたことがあります。子どもたちのふれあいは初めてでした。

最初に片田舎の小学校を訪問した時、多くの子どもたちがとても暑い中、両側に並び私たちを温かく迎えてくれました。その瞬間胸がキュンとし、目頭が熱くなりました。

会員の方が井戸、トイレを贈呈し、皆さんが大変喜んでいました。小学校には井戸がなく、トイレも一ヶ所に私は大変驚きました。その井戸で、子どもたち、村人の多くの人々が救われます。

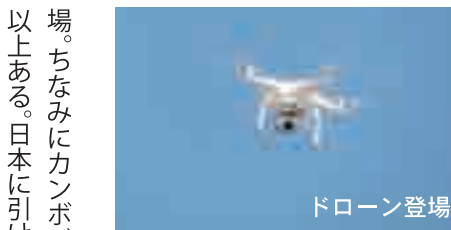
また、里子に初めて会い、喜んでくれとても嬉しく思いました。夢ホームの子どもたちも明るく、日本語で挨拶をし、将来の夢を語ってくれました。

カンボジアの子どもたちはシャイで人懐こく、とても可愛いです。私はこれからも、カンボジアの子どもたちが夢を叶うよう、支援を続けていきたいと思います。

里親会員 榎川富夫 (埼玉県桶川市)



教育支援する里子に会いました



ドローン登場

贈呈式にドローン登場

2月15日に行われた「マレッチ小学校」新校舎の贈呈式では、カンボジアテレビ局が会場にドローンを飛ばし取材していた。30回以上行った贈呈式で初登場。ちなみにカンボジアテレビ局は10局以上ある。日本に引けを取っていない。



アンコールワット

世界遺産で有名なアンコールワット。メイン道路の西参道は、日本の援助で修復工事中だった。そのため参道に沿い仮橋が設置されていた。大事な世界遺産、参道は観光客を通さないのが、いいのだが。

「タバコの箱詰め」 たまたま訪問した教育里子の家で、子どもがタバコの箱詰めをしていた。近くにタバコ製造工場があり、そこからの内職のようだ。健康上よろしくない作業だが、安い工賃でも大事な収入源。



タバコの箱詰め

「ゴミかご作り」 訪問した教育里子の家で、父親がゴミを収集するカゴを編んでいた。一日5個できるそう。1個5000リエル(1200円)で売れるそうだ。材料費を差し引くと、1カ月1000ドル(11,000円)の収入。お父さんがばって!



カゴ編み

投稿 何だかみんなイキイキしている

佐々木さんのレポート(104号)に魅せられて、空港から首都中心部まで、路面電車?に乗ってみた。

近代化は進み、新幹線ヘッドの車両(1両編成)だが1日1本、乗客は私1人。途中、車掌がトンカチを持ち、ハシゴで降りていく。どうもポイントの切り替えらしい。そのノンビリした作業も懐かしいが、沿線の風景にひきつけられる。

線路の両脇、ゴミの中に人々の暮らしが広がっている。家族がくつろいでいる。子育て、食事、昼寝、賭け事・・・

子どもがパンツ1枚で手を振っている。何だかみんなイキイキしている。

終点、プノンペン中心部の駅前には高層ビル群が並び、近代的だ。だが私には、鉄道の風景の暖かさが忘れられない。



里親会員 宮下 隆 (東京都調布市)

2019年度 夢ホーム里子訪問の旅 年間日程表

回	成田出発日	成田帰国日	申込期限
終了 第④①回	2019年 3月7日(木)	2019年 3月13日(水)	2019年 2月7日(木)
第④②回	2019年 7月4日(木)	2019年 7月10日(水)	2019年 6月4日(火)
第④③回	2019年 11月7日(木)	2019年 11月13日(水)	2019年 10月7日(月)

本会の会員状況をお知らせいたします (2019年3月末日現在)

●教育里親会員	265名
●個人会員	100名
●団体会員	7団体
●寄付協力者(単発)	57名
合 計	429名

書き損じハガキ・未使用切手 ・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。



事務局便り

- 第41回「カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅」(3月7日～13日)は、19人の会員さんが参加し無事終了しました。次は第42回を7月4日～10日に予定しています。皆様奮ってご参加ください。(百聞は一見に如かず)
- 「カンボジア・フェスティバル」(5月3日～4日・代々木公園)で、カンボジア製品を販売したり、広報活動を行います。ボランティアでお手伝いしてくれる方を募集しています。見に来てくださるだけでもOKです。(☎03-3991-2854)
- 「第17回定期総会」が3月30日に行われ、今年度の活動計画・活動予算などが承認されましたので、いよいよ本格的な活動が始まります。会員の皆様宜しくお願い致します。
- 5月～6月の予定
- 会報「アンコールワット」5月1日付け第106号発行
- 「カンボジア・フェスティバル」に出席(5月3日～4日・代々木公園イベント広場)
- 根岸理事長他数名の会員がカンボジア訪問(5月9日～25日)

春さんのカンボジアレポート ～カンボジアの携帯電話事情～

カンボジアは携帯電話の普及率が2017年で約130%。これは、電話機を複数持っていたり、電話機にSIMカードを2枚入れているためで、実際は90%程度です。

どこの町にも、携帯ショップが並んでいます。展示されているのは、新品と中古が半々で、値段はガラケー式の20ドルから、スマートホンの1000ドル(10万円)に近いものまで様々。客待ちしているトゥクトゥクの運転手も、スマホに見入っています。

リキシャ型ツクツクでは、配車アプリを使う営業必需品です。

商店の店員は、誰かとお喋りしたり、スマホを見たりで、客が来ても止めません! 幼い子どもも遊びを忘れて、手慣れた様子でスマホのゲームやらユーチューブで、テレビっ子ならぬスマホっ子です。

通信料は、1分0.07ドル(約7円)で、カンボジア人の平均使用料金額は、月10ドルです。

運営会社は、以前は20社ほどありましたが、激しい競争で今は3社に集約されました。



里親会員 鈴木春男 (カンボジア・シェムリアップ在住)

活動に参加しませんか

正会員として

●教育里親会員(年額3万円)
子どもたちへ直接払う年額

1万2千6百円(42%)
会の運営に回す年額

1万7千4百円(58%)
個人会員(年額5千円)

団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

会費寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】

21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】

019支店 当座0160916

【りそな銀行】

練馬支店 普通4098235

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

第42回「カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅」実施のお知らせ

第41回「カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅」は会員19人が参加し、3月7日～13日に行われました。初めて参加した会員も沢山おられ、有意義な旅でした。

そこで、第42回の旅を計画しましたので、会員の皆様、奮ってご参加ください。

【旅の主催】

- 「カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅」実行委員会
- 本会は従来通り側面からサポートします。

【旅の期間】2019年7月4日(木)～10日(水)(成田到着日)

【主な内容】

- 小学校を訪問、井戸の贈呈式に参加、学用品を配布し生徒たちと交流する。
- 本会が教育支援する里子たちの家を訪問、里子たちと交流する。
- 本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問、子どもたちと交流する。

【参加対象】

- 本会の教育里親会員、個人・団体会員(入会すれば即参加可能)

【滞在実費概算】

- 5泊7日で滞在費用は350ドル～400ドル程度(4万円～4万5千円程度)
《内訳》部屋代5泊半日で165ドル・交通費・食事代・観光経費で約200ドル。(アンコールワット観光費用を除く)
- 往復航空券(各自手配)(成田～プノンペン)は、7万円～8万円(時期、購入方法により異なる)

【主な日程】

- 7月4日(木) 成田11時発(ANA直行便・NH817便)プノンペン行き 午後4時到着⇒ホテル
- 7月5日(金) 小学校訪問、井戸贈呈式・学用品配布・生徒と交流
- 7月6日(土) 悲劇の跡地視察:トゥールスレン博物館⇒キリングフィールド⇒内戦時代の写真展示レストラン「FCC」(昼食)

【オプションツアー】アンコールワット観光(3名以上で実施)費用はおおよそ300ドルを見込んでいます。

※前日国内便で出発⇒シェムリアップ泊(夕食はアプサラ鑑賞付き)⇒アンコールワット観光⇒国内便でプノンペンへ。

- 7月7日(日) 児童養護施設「夢ホーム」訪問交流⇒近隣のスラム街訪問⇒セントラルマーケット
- 7月8日(月) 里子訪問(里親以外の会員も参加できます)2～3人の里子を訪問。
日程の都合で他の日に里子訪問をお願いする場合があります。
- 7月9日(火)「午前」ワットコフ小学校授業参観
「午後」自由行動 夜、ANA直行便(NH818便)で帰国(機内泊)
- 7月10日(水) 午前6時半 成田国際空港へ到着

◎航空券は原則個人で手配願います。(インターネット又は近くの旅行代理店で購入)

◎入国ビザは現地空港で取得します。(30ドルかかります)

ビザ申請書含む入国書類は、本会作成の記入例に従い機内で記入します(旅の参加者がサポート)

◎ホテルの予約、車の手配は実行委員会が行います。

◎参加締切日は出発の1カ月前(6月4日)、ご希望の方は事務局へ連絡願います。(詳細資料を送付します)

◎連絡先=NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会

☎03-3991-2854 ファクス03-3557-1213

感動的な里子訪問

